



START

事業の背景

気軽に楽しめるおしゃれ着尺を 少量多品種で製造

訪問着などのフォーマルな着物だけでなく、普段着に使える着物も提案したいと、おしゃれ着尺と呼ばれる少量多品種の着物を製造。その際に時間がかかる工程を効率化しようと目をつけたのが、染料の調合だった。着物の色は職人が原材料の赤青黄を組み合わせることで染める色を作り、手描きで色を塗ったり、着物ごとに染め上げたりする。色の調合は大変時間のかかる作業で、通常1時間に3~4色程度しか作れない。多品種生産を目指す青柳では短時間で多くの色を調合する必要があった。



ACTION

取組の内容

時間の短縮と 質の均一化に成功

ものづくり補助金で導入した「染料調液装置」は、職人が記録してきた膨大な色のデータを基に必要な色を調合する。職人が手作業で行うよりも1/3の時間で調合できるようになった。また、当機械は万が一原材料が欠品してしまっても手持ちの原材料から色見本に合致する色を作ることが可能。効率化や質の均一化を図ると同時に不測の事態にも対応可能となった。ただし、職人の知識や経験が不要になったわけではない。新たな染料の色を作るのは職人の役目。双方の力を大切に活用していきたい。



ABOUT

私たちについて

工房見学など 着物文化を伝える役割も担う

図案の作成から配色や染め、手描きなど一貫生産で着物を製造する株式会社青柳。創業は1938(昭和13)年で、当初は染物屋としてのスタートだった。その際、十日町で初めて友禅染めを手がけたといわれている。その後織物業も始め、1952(昭和27)年には青柳織物株式会社を設立。さらに、1992(平成4)年に株式会社青柳に社名を変更。現在では、業界としては珍しい工房見学の受け入れを行うなど、着物文化を知ってもらおう機会も創出している。



FUTURE

今後の展開

販売の現場に出て、 意見を聞き出す

消費者ニーズが多様化する中、製造会社であっても販売の現場に出なくては、消費者の動向をつかめない。一貫生産は設計者が着物に想いを乗せやすいのと同時に、消費者の意見も反映しやすい。新たな商品を開発する中で、消費者に求められる着物をどのように作るかが、これからの時代に必要

な視点のひとつである。現在、小売店主催のイベントに参加し、販売者や消費者と接する機会を作ってもいる。今後も問屋さんとの棲み分けも意識しつつ、小売店との連携も図りながら、リアルな声を取り入れる場を増やしていきたい。

機械でも職人の知識や経験には届かない部分は沢山あります。棲み分けを意識して効率化を進めようとしています。



開発室主任
田辺 浩一氏

CASE

3

平成24年度

株式会社青柳

着物の産地十日町で、
新しい着物をつくり続けるために



Info

■着物の製造及び販売業

株式会社青柳

住 所 新潟県十日町市栄町 26 - 6

T E L 025-757-2171

U R L <https://kimono-aoyagi.jp>



会社 HP